



世界農業遺産「能登の里山里海」を構成する来訪神行事（アマメハギ・面様年頭・アエノコト）の令和6年能登半島地震発生後における受容および情報発信の実態

小川, 晴叶
河本, 大地

(Citation)

兵庫地理, 70:127-135

(Issue Date)

2025

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100495949>



世界農業遺産「能登の里山里海」を構成する来訪神行事（アマメハギ・面様年頭・アエノコト）の令和6年能登半島地震発生後における受容および情報発信の実態

小川晴叶・河本大地

I. はじめに

1) 研究の背景と目的

本研究の目的は、世界農業遺産「能登の里山里海」として価値づけられてきた地域資源のうち奥能登地域の来訪神行事（アマメハギ・面様年頭・アエノコト）に対するさまざまな思いや見方の特徴を、令和6年能登半島地震（2024年1月1日）発生後のX（旧ツイッター）上での表現から明らかにすることである。12月から3月にかけて奥能登で実施される来訪神行事群は、2024年には実施時期が地震発生と近いことから震災の影響を強く受けた。本稿は、河本（2024）に続くものであり、地震発生後のXの投稿やウェブ上の記事から、奥能登の来訪神行事の受容および情報発信の実態を分析する。

「能登の里山里海」は、2011年6月に日本で初めて認定された世界農業遺産のひとつである。石川県能登地域の4市5町（七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町、中能登町、穴水町、能登町、宝達志水町）で構成されている（第1図の奥能登・中能登・口能登の範囲）。世界農業遺産は、2002年に国連食糧農業機関（FAO）が世界的に重要な農業地域を未来へ引き継いでいくことを目的に実施している事業であり、伝統的な農林漁法、伝統技術、農村文化や景観、生物多様性などを構成要素とした「地域システム」の保全が目指されている。英語では”Globally Important Agricultural Heritage Systems”であり、GIAHS（ジアス）という略称が用いられることもある。2024年10月7日現在、世界で28か国の8地域（そのうち日本は15地域）が認定されている。

第1表に「能登の里山里海」の主な構成資源を示す。



第1図 能登半島の通称的な地域区分

一般社団法人能登半島広域観光協会（2022）をもとに小川が作成。

第1表 「能登の里山里海」の主な構成資源

■全体
「能登の里山里海」「里山 能登」「里海 能登」「SDGs 能登」「satoyama noto」「GIAHS noto」
■生物多様性が守られた伝統的な農林漁法と土地利用
「はざ干し 能登」「天日干し 能登」「海女 能登」「漁 能登」「棚田 能登」「谷地田 能登」「ため池 能登」「生態系 能登」「ボラ待ちやぐら」
■里山里海に育まれた多様な生物資源
「シャブゲンゴロウモドキ」「ホクリクサンショウウオ 能登」「イカリモンハンミョウ」「希少種 能登」「生きもの 能登」「渡り鳥 能登」「中島菜」「能登野菜」「能登大納言小豆」「在来品種 能登」
■優れた里山景観
「白米千枚田」「茅葺き 能登」「白壁 能登」「黒瓦 能登」「家並み 能登」「間垣 能登」「風景 能登」「景観 能登」
■伝えていくべき伝統的な技術
「揚げ浜式」「製塩 能登」「輪島塗」「伝統工芸 能登」「炭焼き 能登」「伝統技術 能登」「いしる」「いしり」「杜氏 能登」
■長い歴史の中で育まれた農耕にまつわる文化・祭礼
「キリコ 能登」「奉燈 能登」「農耕儀礼 能登」「 <u>あえのこと</u> 」「 <u>アマメハギ</u> 」「農耕 能登」「祭礼 能登」
■里山里海の利用保全活動
「能登の里山里海」「棚田オーナー 能登」「農家民宿 能登」「春蘭の里」「農林水産物 能登」「生業 能登」「人材育成 能登」

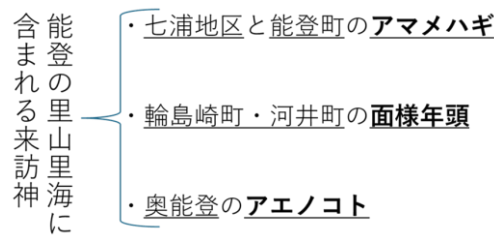
河本（2024）に掲載した検索語の一部を変更して河本が作成。

2) 研究対象地域と方法

研究対象の地域は、珠洲市・輪島市・能登町・穴水町であり、これらの市町村が位置する能登半島の先端部は総じて「奥能登」と言われる。奥能登には、この地には来訪神行事が伝承されており、「能登の里山里海」を構成する重要な文化・祭礼として価値づけられている（第1表）。本稿で扱う「アマメハギ」「アエノコト」「面様年頭」という三つの名称は奥能登に伝承されている来訪神行事の通称である（第2図）。

世界農業遺産「能登の里山里海」として価値づけられてきた来訪神行事を指す単語（第1表）が、令和6年能登半島地震発生後の2か月間にSNSのひとつであるX（エックス、旧称Twitter）上でどのように表現されてきたかを確認する。アマメハギ（あまめはぎ）の投稿に関しては、水木しげるの作品内の「アマメハギ」以外の文脈（地域や地震、来訪神行事等）を有さないものは本稿の収集対象から除外している。

本稿ではこのうち1月・2月分を対象とする。これらをテキストマイニング分析ツールである「KH Coder」にかけ、要素間の対応関係の分析や、文章中に共起している語のパターンを共起ネットワーク図として図示する共起ネットワーク分析をおこなう。その際、強制抽出する語として「石川」「能登」「能登半島」「輪島」等の地名と、「あまめはぎ」「アマメハギ」「なまはげ」「ナマハゲ」「ナモミ」「スネカ」等の来訪神の呼称を設定した。標準状態で分析かけると、これらの語が人名として扱われたり、一部の文字だけで抽出されたりするためである。



第2図 能登の里山里海に含まれる来訪神行事
小川作成。

II. 対象地域の来訪神行事

「来訪神」については、学術的な定義として確立されたものがあるとは言えない。本稿では『精選 日本民俗辞典』の「まれびと」の説明を参考に、来訪神の定義を「存在発生当時には到達できなかった空間（海の彼方や山の奥、天空等）である異界から、時を定めて人里に来訪する神々のうち、人々に幸福と豊穡を与えに来るもの」とする。有名な来訪神として、岡本太郎によって有名になったナマハゲが挙げられる。ナマハゲについては、来訪神の定義に即した特徴ではない、子どもを叱りつける特徴がよく知られている。来訪神行事において、人間が仮面や衣装を身に着けて人外に扮することで、ナマハゲのように来訪神が可視化されることが多い。一方、少数ではあるものの本稿で取り上げるアエノコトのように来訪神の可視化がなされないものもある。第2表に即して、三種類の奥能登の来訪神の概要を説明する。

第2表 来訪神行事の基本情報

来訪神行事	来訪神	実施地域	内容	仮装者
アマメハギ	アマメハギ	七浦地区	子どものみに訓戒 怠け者を否定する	成人男性
		能登町	年齢問わず訓戒	子ども
アエノコト	田の神	奥能登一帯	主人が目に見えない田の神を饗応・入浴等でもてなした後に田に送り出す	無し
面様年頭	面様	輪島崎町	面様に主人が年賀の挨拶をする	男子児童
		河井町		成人

青山（2018）、中村ほか（2012）、菅根（2024）を参考に小川が作成。

アマメハギの実態については青山（2018）に詳しい。「アマメハギ」は来訪神行事と来訪神の双方ともを指す言葉である。「アマメ」は、囲炉裏に長時間あたたっているとできる赤い胼胝（たこ）を指す。「アマメハギ」は「アマメ剥ぎ」のことであり、囲炉裏に長くあたたっているような怠け者を懲らしめにくる存在である。この特徴はナマハゲと同じであり、語源も同じである。アマメハギにおいて注意すべきこと

は、実施地域による内容・仮装者の違いである。輪島市の七浦（しずら）地区（皆月、五十洲）では20～38歳の成人男性が仮装するが、能登町では小学生あたりの子どもが仮装する。能登町のアマメハギでは、仮装した子どもたちが家々を巡り、年齢を問わず怠け者を戒める。アマメハギはこのように仮装者と実施される地区・市町村の住人が揃ってはじめて成立する来訪神行事である。

次に、アエノコトの説明をする。2018年にアマメハギ・面様年頭を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコの無形文化遺産に登録されたが、アエノコトは先んじて2009年にユネスコの無形文化遺産に単独で登録された来訪神行事である。アエノコトは来訪神行事であり、農耕儀礼でもある。したがって、来訪神は田の神様であり、行事を担うのは稲作従事者である。アエノコトでは、稲作従事者の家の主人が目に見えない田の神をもてなすという形式で実施されるため、仮装者はいない。主人は田の神を風呂に案内した後に、田の神を料理でもてなす。田の神が座るゴザを敷き、手前に料理を並べる。お米を用いた料理だけでなく、魚・野菜を主とした料理も並べられる。主人は田の神に口上を述べて料理を一品一品説明していく。その後、田に行けるようになってから主人が櫛に宿った田の神を田圃に送り出す。これが大まかなアエノコトの実施行程である。

饗応に必要な食品・食器を供給する奥能登の畑作・漁業従事者や輪島塗職人もアエノコトに間接的に関わっているが、当日のアエノコトの運営は稲作に従事する家の主人によってのみ成立する。奥能登内外からアエノコトを見に来る人は多いが、当日のアエノコトの運営に他人は基本関与しない。アエノコトはアマメハギ・面様年頭とは異なり、地域の住人を巻き込む行事ではない。アエノコトは、無形文化遺産や世界農業遺産によって価値づけがなされているにも関わらず、各家の個人的な伝統行事から国・地域で守っていくべき伝統行事になりきれていないのである。このことが、令和6年能登半島地震発生後の報道機関の情報発信の内容に如実に表れている。アエノコトの儀式についての説明は中村ほか(2012)を参考にした。



写真1 山の神さまをお迎えする「アエノコト」が始まります。



写真2 奥能登に伝承されている農耕儀礼アエノコトは、家で冬の間休まれた田の神様を、仕事へ送り出す祭。写真は送り出し風景。かんじきかスキー板を履いて田に向かっていきます。



写真3 奥能登・輪島市三井町市ノ坂の農耕儀礼アエノコト。田の神様は、お仕事に就かれました。五穀豊穡で、皆が幸せを感じられる年になりますように。

写真1・2・3は、輪島市三井町市ノ坂で「土地に根ざした学びの場」として活動してきた「まるやま組」が行うアエノコトに河本が参加した際のものである（いずれも2012年2月26日に撮影）。各写真のタイトルは、河本が当日、Instagramに投稿した内容である。

面様年頭はアマメハギの一種ではあるが、アマメハギよりもアエノコトに近い来訪神行事である。実施地域は輪島市内の輪島崎町・河井町であり、仮装者は輪島崎町では男子小学生、河井町では成人となっている。二人組の面様が各町の神社から出発し、氏子の家々を来訪して周る。家の主人は家に挙げた面様に年賀の挨拶を行い、初穂を差し上げる（図8）。このように、面様年頭はアエノコトのように来訪神をもてなす行事だが、仮装者と実施される地区・市町村の住人が揃ってはじめて成立する点はアマメハギと同様である。面様年頭は厄を払うだけでなく豊漁を祈る行事でもあるため、アエノコトのように産業に密接に関わっているという特徴を持つ。つまり、アマメハギのように来訪神が可視化されている地域ぐるみの行事である一方で、実施の形式や目的がアエノコトと似た来訪神行事が面様年頭なのである。面様年頭の説明は菅根（2024）を参考にした。

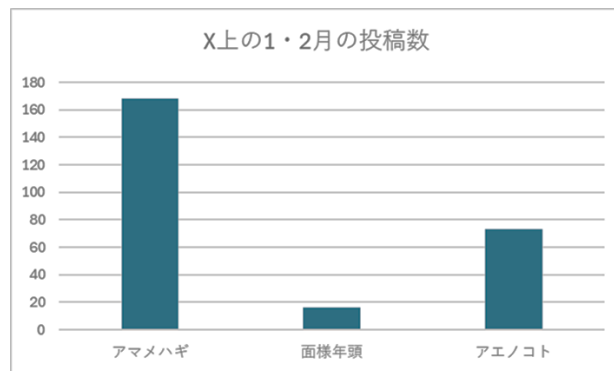
Ⅲ. 来訪神行事の受容・情報発信の実態分析

本章では、三種類の来訪神行事の受容と情報発信の実態を分析する。

1) X上での受容実態

第3図は、1・2月中で各来訪神行事の名称を含むX上の投稿数をグラフ化したものである。面様年頭の投稿数が最も少なく、アマメハギの投稿数が、次ぐアエノコトの投稿数の二倍強である。

筆者らは、アマメハギの投稿数の高さの理由を調べるために、期間内のアマメハギの投稿をテキストマイニング分析ツールであるKH Coderにかけた。そして、頻出語と掲載日との対応関係を分析する第4図を作成した。なお、同様に共起ネットワークの図も作成したが、新たに分かることが無かったため割愛する。



第3図 各来訪神行事のX上の投稿数

集計結果を基に小川が作成。

第4図では、原点(0,0)に近い程全体的に分布する頻出語であり、原点から離れる程偏在的に分布する頻出語であることを示している。筆者のひとりである小川は、主に右上の部分に注目した。右端の中央部には妖怪という言葉が見られ、右上には令和6年能登半島地震に関する言葉が集中している。これら二つのまとまりの中にみられる語は、横軸縦軸方向に±1に収まる程度に分布しており、頻出語全体では比較的全体的に分布する。

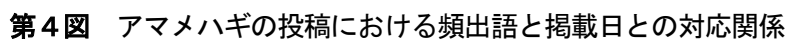
2) アマメハギの投稿の変遷

アマメハギは他二種類の来訪神が有していない受容の側面がある。それは妖怪の側面である。アマメハギが妖怪として受容されていく発端は、水木しげる氏が1960年代から週刊少年マガジンで執筆し始めた『ゲゲゲの鬼太郎』と付随する妖怪図鑑である。第17話「コマ妖怪」において、北陸に生息している中年男性の姿をした妖怪として描かれた。この作品のアマメハギはコマを回すという関係の無い特徴を付与されながらも、子どもの足の皮を食べるという元来のアマメハギを仄めかす嗜好も付与された。また、ゲゲゲの鬼太郎の作品群として子ども向けに制作された妖怪図鑑では、来訪神や行事の要素を抜いたうえで、アマメハギを子どもの足の皮を年末の夜に剥ぎに来る妖怪として紹介している（水木2004a）。「コマ妖怪」は1960～2000年代にかけて、『ゲゲゲの鬼太郎』において別パターンで4回アニメ放送されていた。したがって、来訪神行事の要素は捨象されているものの、子ども時代にテレビアニメ

地震発生後に X 上で初めて投稿されたアマメハギに関するツイートは、妖怪としてのアマメハギを紹介し、被災地に応援を送る旨の詩月七夜氏によるものだった。その後 1 月 8 日に、人間社会に溶け込む妖怪たちを描く夜風さら氏が七浦地区のアマメハギを描いた 4 コマ漫画を掲載し、多くの人の目に触れることとなった。このように、アマメハギの投稿は妖怪の有識者によってなされたのである。しかし、その後は能登半島の伝統文化としてアマメハギを扱う投稿が増加し始めた。そして 1 月 22 日に産経新

アマメハギの投稿が他と比べて多い理由は、妖怪の有識者の投稿があったことと報道機関のネット記事の引用投稿が多かったことが考えられる。

次に、来訪神行事の被災状況や開催の可否に関する情報発信について論じる。後述する内容の概略と

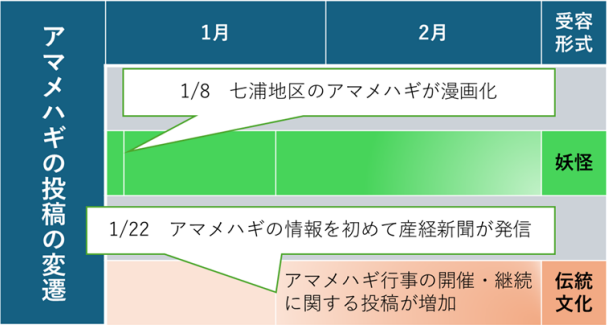


- 131 -

来訪神の基本知識を第4表に概ね載せているので、適宜参照してほしい。初めに「行事関係者」の

定義を断っておくが、本稿の「行事関係者」とは来訪神行事の開催に不可欠な人々のことである。アマメハギとアエノコトを例に具体的に説明する。アマメハギの行事関係者に仮装者は当然含まれるだろう。しかし、仮装者だけではアマメハギは成り立たない。アマメハギに来訪される家々、即ち開催地区の住人なしでアマメハギは成立しえない。アエノコトはどうだろうか。来訪神に来訪される家は行事の運営を行う主人の家ただ一つである。したがって、行事関係者は多く見積もっても主人の世帯家族に収まる。

第3表 アマメハギの投稿の変遷



集計結果を基に小川が作成。

第4表 来訪神行事の情報発信の実態

	実施地域	新聞での発信	行事関係者によるX上の発信	行事関係者の範囲	実施状況	X上での知名度	人的条件
アマメハギ	七浦地区	なし	なし	同地区の人々	不明	高	成人男性
	能登町	あり		同町の人々	中止		子ども
アエノコト	奥能登一帯	あり	なし	主人の世帯	延期実施中止	中	稲作従事者
面様年頭	輪島崎町	なし	なし	同町の人々(氏子)	恐らく中止	低	男子児童
	河井町						成人

青山（2018）、中村ほか（2012）、菅根（2024）、その他報道機関のネット記事、重蔵神社のツイートを参考に小川作成。

第5表 報道機関によるネット上のアマメハギの情報発信

掲載日	報道機関	取材地域
1/22	産経新聞	能登町秋吉区
1/25	北國新聞	能登町秋吉・河ヶ谷・清真区
2/3	NHK	能登町
2/3	東京新聞	能登町
2/3	NHK（石川 NEWS WEB）	能登町
2/4	読売新聞	能登町秋吉区

上記のネット記事を基に小川が作成。

第6表 報道機関によるネット上のアエノコトの情報発信

掲載日	報道機関
1/27	北國新聞
1/29	東京新聞
2/2	日本農業新聞
2/9	北國新聞
2/9	日本経済新聞
2/9	TBS
2/9	北陸中日新聞
2/10	北國新聞
2/14	朝日新聞

上記のネット記事を基に小川が作成。

震災発生直後の二か月間のX上の投稿を調べたが、行事関係者と考えられる人物からの情報発信は、三つの行事全てにおいて皆無だった。特に面様年頭については興味深いことが分かった。面様年頭は三つの中で唯一X上でも記事でも情報発信がされなかった来訪神行事である反面、三つの中で唯一X上に行事関係者が明確に存在する来訪神行事でもある。その行事関係者とは河井町の面様年頭を神事に位置づけている重蔵神社である。重蔵神社は壊滅的な被害を受けたにも関わらず、地震発生日の翌日から支援物資配給や炊き出し活動を行い、1月5日からX上で活動情報の周知を行っていた。面様年頭を毎年執り行う1月14日にも、重蔵神社アカウントは同様に活動周知の投稿を挙げており、多忙であったことが伺われる。地震発生後に初めて投稿された神事は2月3日の豆まき(追儺祭)であったこともあり、面様年頭は執り行われなかったと考えられる。面様年頭を含め、神事の不実施に関する投稿がされていなかった(8月18日時点)のは、被災地へ発信する情報の中でもこれらの情報の優先順位を低く判断したからだろう。

アマメハギの情報発信には地域差が出た。第5表を見ると、確認できたネット記事全てが能登町のアマメハギのみに焦点を当てていることが分かる。輪島市内の七浦地区のアマメハギは1月2日に行われ

るようになった(青山 2018)ので、七浦地区のアマメハギも震災の影響が及んでいるはずである。

アエノコトの情報発信はアマメハギより盛に行われ(第6表)、他の二種類と異なり3月～5月にもなされていた。アエノコトもアマメハギも開催予定日にネット記事の掲載が集中している(第5表・第6表)。能登町のアマメハギと奥能登のアエノコトは報道機関による情報発信があるため、X上で行事関係者が個人的に情報発信する必要が無かったと考えられる。

来訪神行事に関するネット上での情報発信は地震発生直後の3週間以降に始まり、この3週間中に開催予定だった面様年頭と七浦地区のアマメハギについては触れられることは無かった。

Ⅳ. おわりに

X上の来訪神行事の投稿数は認知度に比例し、ネット記事の掲載がXの投稿に影響を与えた。奥能登の来訪神行事は他の被災した行事や被災地の情報に比べて、情報発信の優先順位が必ずしも低く評価されている訳ではなかったが、行事関係者の個人的な情報発信は皆無であり、情報発信は報道機関に委ねられた。報道機関の情報発信も、開催日がまだ訪れていない来訪神行事に限って地震発生から3週間後に行われ始めた。アエノコト・面様年頭に関しては、行事関係者によって、伝統行事の中止や行く末に関する投稿が1月1日からなされていた。他方、アマメハギについては、地震発生後の早い段階から妖怪に関する有識者によって被災地と来訪神行事に関する投稿がなされていた。

本稿で扱った内容について、より普遍的な結果を得るためには、分析対象のSNSを増やすことや、似た条件の別事例を比較研究することが必要になるだろう。また、より地誌学的に研究を進めるならば現地に出向いて、運営の経験者・開催地域の住人にインタビューをして事実確認を行う必要があると考える。これらは今後の課題としたい。

付記

本稿は、河本が2024年度前期に担当した大阪公

立大学文学部「地理学特講B」において、河本(2024)の内容とその後の動きに関心をもった小川が中心となり、河本とともに執筆したものです。本稿の骨子は、2024年8月4日の2024年度兵庫地理学協会夏季大会(於:神戸学院大学有瀬キャンパス(神戸市西区))において発表しました。コメントを頂戴しました皆様に厚くお礼申し上げます。

文献

- 青山十也(2018):七浦に伝わる伝統アマメハギ, 金沢大学文化人類学研究室調査実習報告書 33, pp. 86-94.
- 一般社団法人能登半島広域観光協会(2022):『能登における発酵食文化発掘・発信事業 報告書』, 一般社団法人能登半島広域観光協会.
- 上井啓太郎・柳昂介(2024):能登「あえのこと」田の神様に震災復興祈る 各地で苦心の開催…輪島は1カ月延期, 北陸中日新聞 2024年2月9日記事,
<https://www.chunichi.co.jp/article/851413>
(2024年8月18日最終閲覧)
- 鴨川一也(2024):「地震あろうが続いていく」能登のアマメハギ、資料館被害も, 産経新聞 2024年1月22日記事,
<https://www.sankei.com/article/20240122-2CK7DFXXKFOLVBR6ZHR55H4RS4/> (2024年8月18日最終閲覧)
- 河本大地(2024):「能登の里山里海」と令和6年能登半島地震発生後の1か月—世界農業遺産として価値づけられた地域資源は震災後のX(ツイッター)でどう表現されたか(試行的分析)—, 兵庫地理 69, pp. 143-156.
- 菅根幸裕(2024):コロナ渦中における民俗行事の原点回帰—能登のアマメハギを中心に—, 千葉経済論叢 70, pp. 53-81.
- 東京新聞(2024):田んぼの神様、送り出せない…奥能登の世界無形遺産「あえのこと」 穴水町で唯一受け継ぐ農家の切ない思い, 2024年1月29日記事
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/305922>
(2024年8月18日最終閲覧)
- 東京新聞(2024):<コラム 筆洗>, 2024年2月3日記事
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/307070>
(2024年8月18日最終閲覧)
- 東京新聞(2024):消えちゃうの?能登の伝統「あえのこと」 過疎に地震に…「個人の農耕儀礼」だけに行政も支援が難しい, 2024年5月5日記事
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/323542>
(2024年8月18日最終閲覧)
- 中村喜代美・新澤祥恵・川村昭子(2012):石川県における行事食と調理文化に関する研究(第3報)—あえのこと—, 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要 5, pp. 239-245.
- 日本農業新聞(2024):[今、どうしていますか? 能登半島地震1カ月] 米農家・石川県能登町・中正道さん(72), 2024年2月2日記事
<https://www.agrinews.co.jp/news/index/211858>
(2024年8月18日最終閲覧)
- 北國新聞(2024):アマメハギ「初めて」中止 能登町4集落「やむを得ず」, 2024年1月25日記事
<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1298924> (2024年8月18日最終閲覧)
- 北國新聞(2024):田の神1年間滞在? あえのこと儀礼ピンチ, 2024年1月27日記事
<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1301385> (2024年8月18日最終閲覧)
- 北國新聞(2024):もてなせずも伝統守る 輪島・三井で「あえのこと」 田の神様送り、実りと復興願う, 2024年2月9日記事
<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1313677> (2024年8月18日最終閲覧)
- 北國新聞(2024):田の神様「お許しを」 何とか「あえのこと」 営む 奥能登各地, 北國新聞 2024年2月10日記事
<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1314311> (2024年8月18日最終閲覧)
- 水木しげる(2004a):『水木しげる 妖怪大百科』, 小学館.
- 水木しげる(2004b):『水木しげる 鬼太郎大百科』,

小学館.

読売新聞 (2024) : 被災した家も多く「さすがにやれんわ」…無形文化遺産で能登の伝統行事アマメハギは中止に, 2024 年 2 月 4 日記事

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20240203-0YT1T50177/> (2024 年 8 月 18 日最終閲覧)

NHK (2024) : 伝統行事「アマメハギ」一部地区で開催見合わせ 石川 能登町, 2024 年 2 月 3 日記事

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240203/k10014345831000.html> (2024 年 8 月 18 日最終閲覧)

NHK (2024) : 厄除けの伝統行事「アマメハギ」一部で開催見合わせ, 2024 年 2 月 3 日記事

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kanazawa/20240203/3020018774.html> (2024 年 8 月 18 日最終閲覧)

TBS (2024) : “ダイコンとサツマイモをお供え” 奥能登の伝統行事「あえのこと」にも地震の影響 延期の判断も, 2024 年 2 月 9 日記事

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/992306?display=1> (2024 年 8 月 18 日最終閲覧)

(おがわ はると・大阪公立大学文学部生)

(こうもと だいち・奈良教育大学)